

教育研究業績書

2024年 9月 20日

氏名 フランシスクス・プルハスタント

著書、学術論文等の名称	単著共著 の別	発行又発表 の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会の名称	概要
(博士論文) インドネシアにおけるイスラーム市民運動“The Role of the Pesantren Tebuieng in Strengthening Civil Society in Indonesia : A Case Study of a Local Civil Society Force in Indonesia”	単著	平成29・3	上智大学、地域研究科	上智大学に提出した博士論文。 インドネシアにおけるイスラーム市民運動の考察。 I. 市民社会理論と定義 II. 事例：テブ・イレネ寄宿学校 III. スハルト独裁政権下の民主化 IV. 結論：寄宿学校は民主主義を広め、よりよい民主化を促進する役割をもつ。
(研究記事) 「カトリックとイスラーム教の対話に必要な理解」		平成30・3	『上智大学のキリスト文化研究所』 紀要36、 39－58頁	キリスト教とイスラーム教の相違点と相似点を観察する。まず、双方はアブラハムの信仰から生まれた宗教である。要するに、唯一の神を信じている。しかし、同じ信仰をもっている、それぞれに異なった教義と典礼がある。この状況の中でどのように宗教の対話に架け橋を作るのか、それぞれの実践から促進することができる。
「カトリック教とイスラーム教の対話：双方の相違を尊重する謙虚な態度」 インドネシア語：”Dialog Umat Katolik dan Islam: Sikap Rendah Hati untuk Menghormati Perbedaan”		平成30・12	『ロハニー雑誌』 紀要65、 4－7頁 (Majalah Rohani: Nomor 12, Tahun ke-65, Desember 2018)	カトリック教義とイスラーム教義の相違点を分析する。両者は神の啓示を「神のことば」で表現するが、カトリック教の場合は「神のことば」が人間（イエス・キリスト）となり、それに対してイスラーム教は「神のことば」が聖典（クルアーン）となると主張する。この異なった教義の相違点を理解しあうためには謙虚な態度が求められる。

「インドネシアにおけるリユート音楽：イスラームの儀式では許されるのか？」 「カトリックとイスラームの典礼音楽：日本におけるカトリックとイスラームの事例に見られる、礼拝所で使用される楽器に関する法的及び実践的考え方」		平成 31・3 令和 4・3	エリザベト音楽大学、研究紀要 XXXIX、創立 70 周年記念号 2019、45－57 頁 エリザベト音楽大学、研究紀要 XLII、2022、27－40 頁	19 世紀のインドネシアでは、音楽（リユート音楽、オルケス・ガムブスなど）はイスラームを普及するために大きな役割を果たしていた。現代社会においても、音楽はイスラームの進行を深めるほか、イスラーム教徒の行事（結婚式、割礼式など）の中で頻繁に演奏されている。しかし、どれほどこの音楽が盛んになっても、礼拝中にはすべての音楽の使用は禁止されている。 本論文では、音楽、特に礼拝での楽器の使用に関するカトリックとイスラームの教義とその実践を概観、整理し、日本における両者の現状を把握しながら、両者の相違点と相似点を明白にしたうえで、将来に生じうる問題点とその試みについて考察する。
（研究発表） イスラーム教とキリスト教—信仰と音楽—：インドネシアにおけるリユート音楽 イスラーム世界に生きるキリスト教：キリスト教とイスラーム教の対話に必要な理解 日本におけるイスラーム教徒の発展		平成 29・3 平成 29・6 平成 29・8	エリサバド音楽大学 スプリングフェスティバル文化講演会 広島 上智大学 キリスト教文化研究所の第 45 回連続講演会 東京 JAMIA（イエズス会のイスラーム研究会）スラバヤ（インドネシア）	インドネシアでは、リユート音楽が普及している。しかしいくらリユート音楽が盛んになっても、イスラーム礼拝の中では音楽の使用が禁止されている。なぜ音楽の使用が禁止されているのかはこの研究のテーマである。 イスラーム教とキリスト教は同じ伝統、要するにアブラハムの信仰に由来している。それに基づいて双方の相似点と相違点を土台とする宗教間対話を促進することが可能になる。 日本におけるイスラーム共同体を考察する。現在のデータを見ると、日本のイスラーム人口：11 万人（中に日本人、役 2 千人）、81 軒の礼拝所、2カ所の墓。宗派は主にスンニー派だが、宗派比率は把握できない。

「カトリック：イスラーム教の理解」		平成30・2	四旬節講演会、 カトリック細江教会 (下関)	カトリックとイスラームの啓示の考え方を考察する。カトリックの啓示はイエス・キリストである。要するに、カトリックの啓示は「人間」となった。他方では、イスラームの啓示は「クルアーン」(本)となった。それぞれの異なった考えに基づいて、相互理解を進める。
「宗教間対話の土台となる思想:カトリック教とイスラーム教の対話」		平成30・3	四旬節講演会、 カトリック幟町教会 (広島)	イスラームとカトリックの対話を促進するためには、それぞれの相違点を把握する必要がある。双方の相違点は、それぞれの教義と典礼では大幅に見られる。しかし、双方の実践のところでは、愛、平和、正義という宗教の目的が明白に強調されている。要するに、宗教対話の出会えるところは、異なった教義と典礼ではなく、同じ目的を目指す実践のところにある。
「イエズス会の教育:信仰、宗教、宗教対話」		平成30・4	ゴーセンス記念講演会、エリザベト音楽大学	宗教とは何かを考察する。まず、宗教の重要な要素は信仰と共同体(コミュニティ)である。宗教というのは、同じ団体の中で、同じ信仰(教義、典礼、実践)を日々生活において実行することを指す。各宗教には、異なる教義と典礼があるので、宗教対話では実践のところ(相似点)を生かせたら、宗教的な摩擦を防ぐことができる。
「インドネシアにおけるイスラーム:ユニークで寛大」 英語:“Islam in Indonesia : Unique and More Tolerant”		令和1・10	国際研修会、 マンレサ・ハウス、 ダブリン、アイルランド	中東のイスラーム教と異なり、インドネシアにおけるイスラーム教は地元の慣習・伝統を採用しながら独自の信仰を深めることで、ユニークな特徴を示している。更にインドネシアのイスラーム教は古くから存在したインドネシアの多様な文化を認めることによって、寛大な性質を表している。

「キリスト教とイスラーム教の啓示と礼拝」		令和３・８	イスラーム研究会、 幟町教会	啓示の概念において、キリスト教の場合は「神のことば」は人間（イエス・キリスト）となったがイスラームの場合は「神のことば」は書物（聖典、クルアーン）となった。キリスト教（カトリック教会）の礼拝はミサと呼ばれており、日曜日に行われる。イスラームにおいて礼拝というのはサラートと呼ばれており、合同サラートは金曜日の正午に行われる。
「高等教育の再構築。ポスト COVID-19 におけるクラスルームと地域連携」		令和４・３	アジアパシフィックイエズス会大学 連合（AJCU-AP）による教職員オンライン・ディスカッション	コロナによるオンライン授業がうまく機能しなかったという事実は、私たちに音楽教育の本来の在り方を見つめ直すきっかけを与えてくれた。オンライン授業で賄える情報や知識の共有という範疇を超えた、生身の人と人との温かい交流が、私たちが音楽教育の中で求めていることであることを強調しプレゼンテーションを締めくくった。
「聖イグナチオの霊性に基づく宗教対話：カトリックとイスラーム」		令和４・８	アジア太平洋神学出合いオンライン・プログラム（APTEC Zoom）	聖イグナチオの霊性（神体験）を出発点して、それぞれの宗教（カトリックとイスラーム）の神学的な教えを把握しながら、両者の共通点を明白にし、日々生活の対話を促進する。
「イスラームとの対話：イスラームの第一の柱」		令和４・１０	トリック大阪大司教区 司教館、大阪市	初めてキリスト教とイスラーム教の対話に焦点を当て、今回はイスラーム教における「五つの柱」の一番目、すなわち唯一の神と預言者ムハンマドへの信仰告白を参考にして、イスラーム教の神概念と啓示をキリスト教と比較しながら考察する。

口頭発表 University's Contribution to Communities and Well-Being: Activities of Service-Learning Class at Elisabeth University of Music		令和6・7	The 36th ISME World Conference Pre-Conference Seminar (CMA) タンペレ大学、フィンランド	エリザベト音楽大学の教養科目「人間学サービスラーニング」はカトリック精神に基づいて音楽を提供する奉仕活動であり、それが奉仕を提供する人々へ、および本学学生にとっての Well-Being の発展とどのように関連しているかを考察し、口頭発表を行った。子ども食堂へのチャリティーコンサート、ホームレスの方々への炊き出しと演奏、ベトナム人との交流会での奉仕活動を中心に述べた。
ポスター発表 University's Contribution to Communities and Well-Being: Activities of Service-Learning Class at Elisabeth University of Music		令和6・7	Helsinki Music Center、Sibelius Academy ヘルシンキ	エリザベト音楽大学の教養科目「人間学サービスラーニング」はカトリック精神に基づいて音楽を提供する奉仕活動であり、それが奉仕を提供する人々へ、および本学学生にとっての Well-Being の発展とどのように関連しているかを考察し、発表を行った。奉仕活動の内容としては、子ども食堂へのチャリティーコンサート、ホームレスの方々への炊き出しと演奏、ベトナム人との交流会での演奏活動を中心に述べた。担当教員の専門の領域、音楽大学としての社会貢献の可能性について多くの質問やコメントを得た。
その他：記事 「エリザベト音楽大学におけるコロナ対策の方針」 Elisabeth University of Music: Treasuring the past, moving forward with the spirit		令和4・3 令和6・6	エリザベト音楽大学、研究紀要 XLIII、2023、33-36頁 JCAP enews、29 June 2024 https://jcapsj.org/2024/06/elisabeth-university-of-music-treasuring-the-past-moving-forward-with-the-spirit/	コロナ禍の影響による教育の改善、コロナ禍後の教育および国際間の協調に焦点を当て、エリザベト音楽大学の教育状況を考察しながら、エリザベト音楽大学のコロナ対策の方針を明白にする。 エリザベト音楽大学の歴史、創立者の思いとその中に大切にされたカトリック精神を確認しながら、75周年のお祝いを出発点として、将来の様々なチャレンジをどのように答えていくのかは述べられている。